

カーネーションの鮮度保持剤とその持続性

[要約]カーネーションの切り花鮮度保持剤で、花もち日数が長いのは STS であり、6 回までの連続使用が可能である。

総合農林試験場・野菜花き部・花き科

専門

加工利用

対象

花き類

分類

指導

資料名：平成 13 年度花き試験成績書

[背景・ねらい]

本県のカーネーション農家において、STS、DPSS どちらかの鮮度保持剤が使用されている。また、鮮度保持剤が、何回程度連続使用が可能か問題となっている。

そこで、鮮度保持剤を 2～3 日間隔で連続使用し、カーネーションの切り花品質保持期間（花もち）および、前処理液中のバクテリア数の推移を調査することで、カーネーションに適した鮮度保持剤を選定すると共に、連続使用が可能かどうか明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. カーネーションの切り花鮮度保持剤は、STS が DPSS より花もち日数が優れている。また、漂白剤を加用することによって花もち日数が長くなることはない（表 1・表 2）。
2. 前処理液を 8 日の冷蔵庫で連続使用した場合、STS は 6 回までは花もち日数の低下はない。DPSS については 4 回目以降やや短くなる傾向にある（表 1・表 2）。
3. 前処理液中のバクテリアの増加と、花もち日数との関連は認められない（表 1・表 2・図 1）。
4. 漂白剤によるバクテリア増殖抑制効果は認められない（図 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 冬季における品質保持期間である。

[具体的データ]

表1 「フランススコ」における鮮度保持剤使用回ごとの花もち日数

区	1回	2回	3回	4回	5回	6回
STS(1000)	—	17.7	17.7	17.2	17.8	17.7
STS(1000) + 漂白剤	—	17.3	19.0	18.0	18.5	17.8
DPSS(500)	—	14.7	15.8	13.3	12.7	12.7
DPSS(500) + 漂白剤	—	14.7	16.3	14.7	15.2	13.0
DPSS(250)	—	14.7	15.8	14.2	12.0	12.7
DPSS(250) + 漂白剤	—	15.3	16.0	12.7	13.8	12.7
水	—	13.0	13.3	11.8	9.5	10.8
F 検定		**	*	*	**	**
L.S.D.		2.4	2.8	3.8	4.3	3.8

注) 漂白剤はハイターを使用。水20l 当たり12.5ml 加用(1600倍液)。

(1000) : 1000倍液、(500) : 500倍液、(250) : 250倍液

表2 「ライトピンクパーバラ」における鮮度保持剤使用回ごとの花もち日数

区	1回	2回	3回	4回	5回	6回
STS(1000)	19.3	16.8	15.8	16.0	17.8	17.5
STS(1000) + 漂白剤	19.2	17.7	18.0	17.3	18.3	17.5
DPSS(500)	17.3	16.8	14.7	16.2	15.3	16.0
DPSS(500) + 漂白剤	16.3	17.2	16.3	14.7	15.0	15.3
DPSS(250)	17.0	17.0	15.7	16.2	14.2	15.8
DPSS(250) + 漂白剤	18.0	15.8	15.8	17.3	16.5	15.2
水	11.7	13.0	12.7	11.5	11.5	12.5
F 検定	**	**	**	N.S.	*	**
L.S.D.	3.4	2.3	1.8		3.5	1.8

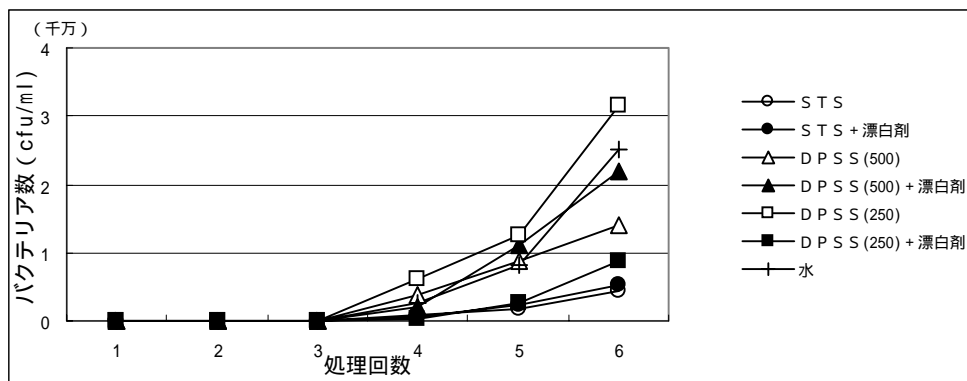


図1 前処理液中のバクテリア数の推移

- 1) 収穫日(前処理日) 平成14年1月18日、21日、23日、28日、30日、2月1日
- 2) 前処理条件および花 8 の冷蔵庫で前処理(1区500mlで6本処理 DPSS 250倍は3時間処理、もち調査 他は18時間処理)を行った後、室内(調査期間中、平均17.7)で水道水に生け、花卉が萎凋するまでの期間を調査した。調査中の生け水の交換、茎の切り戻しは2日に1回行った。

[その他]

研究課題名 : カーネーションの低コスト・省力化栽培技術の確立
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 平成13年度(平成13~16年度)
 研究担当者 : 井上優子、松尾和敏、内川敬介